

保 = 保護者, 地 = 地域 運 = 運営協議会			平成19年度 学校評価(2月)				京都市立花背小中学校			
A...よくあてはまる, B...ややあてはまる, C...あまりあてはまらない, D...まったくあてはまらない			%							
番号	対象	項目	A	B	C	D				
1	教職員	学校教育目標に沿った教育を行っている。	47	53	0	0				
1	保・地・運	学校教育目標に沿った教育が行われている。	40	60	0	0				
2	教職員	年間の行事計画は学校教育目標の実現を考えて立てている。	27	66	7	0				
2	保・地・運	年間の行事計画は学校教育目標の実現を考えて立てられている。	40	50	10	0				
3	教職員	子どもたちが安心して楽しく学校に通えるよう普段から心がけて指導を行っている。	60	40	0	0				
3	保・地・運	子どもたちは安心して楽しく学校へ通っている。	70	30	0	0				
3	児童生徒	楽しく学校生活が過ごせている。	26	45	23	6				
4	教職員	いつも子どもたちの声に耳を傾け、その思いを受け止めようとしている。	53	47	0	0				
4	保・地・運	子どもたちは、とまどい無く教職員に自分の思いを話している。	11	67	22	0				
4	児童生徒	教職員の方たちと気兼ねなく話したり、自分の思いや意見を出せている。	32	48	10	10				
5	教職員	いじめや不登校、問題行動に対して適切な対応を行っている。	47	47	6	0				
5	保・地・運	学校は、いじめや不登校及び問題行動等に対して適切に対処ができています。	38	62	0	0				
5	児童生徒	先生方は、自分のことや友だちのことでの相談に対してきちんと対処してくれる。	26	28	23	23				
6	教職員	子どもたちが自分の良い所を伸ばしていきやすいよう助言指導している。	60	40	0	0				
6	保・地・運	教職員は、子どもたちの良い所を伸ばそうと指導してくれている。	20	80	0	0				
6	児童生徒	教職員の方々は、自分たちの良い所をよく見つけて助言してくれる。	23	54	13	10				
7	教職員	人権を尊重する優しい心や道徳心が育つよう、普段から心がけて指導を行っている。	60	33	7	0				
7	保・地・運	子どもたちには、人権尊重の優しい心や道徳心が育っている。	20	70	10	0				
7	児童生徒	人権尊重についての考え方や、人に対する優しさについて学んでいる。	29	52	16	3				
8	教職員	子どもたちの進路について、相談にのったり助言したりしている。	57	36	7	0				
8	保・地・運	子どもたちの進路についての相談や助言をしてもらっている。	0	100	0	0				
8	児童生徒	自分の進路についての不安や心配ごとについて、相談や助言をもらえる。	16	42	29	13				
9	教職員	子どもたちが落ち着いて学習できる環境の整備を行っている。	40	53	7	0				
9	保・地・運	子どもたちは環境が整備された中で学習している。	20	30	50	0				
9	児童生徒	整った環境の中で、落ち着いて学習に取り組むことができる。	16	33	35	16				
10	教職員	子どもたちの興味・関心に応えた分かりやすい授業を行っている。	43	57	0	0				
10	保・地・運	子どもたちは、興味・関心をもって学習に取り組んでいる。	30	70	0	0				
10	児童生徒	興味・関心をもって授業に取り組み、理解できている。	10	38	29	23				
11	教職員	個に応じた基礎・基本の学力の定着を目指した指導を行っている。	64	29	7	0				
11	保・地・運	個に応じた基礎・基本の学力の定着を目指した取組が行われている。	22	78	0	0				
11	児童生徒	授業中や学習会などで、先生にたずねたりしながら自分の課題が解決できる。	13	55	26	6				
12	教職員	個に応じた発展的な学習への取組に対する支援を行っている。	60	33	7	0				
12	保・地・運	個に応じた発展的な学習への取組が行われている。	30	50	20	0				
12	児童生徒	学習をより深めて発展させていくことができる。	16	51	23	10				
13	教職員	学校行事や児童生徒会行事に積極的に参加するよう指導を行っている。	64	29	7	0				
13	保・地・運	子どもたちは、学校行事や児童生徒会行事に積極的に取り組んでいる。	78	22	0	0				
13	児童生徒	学校行事や児童生徒会行事には積極的に参加している。	45	29	23	3				
14	教職員	部活動やクラブ活動に積極的に取り組むよう指導を行っている。	64	29	7	0				
14	保・地・運	子どもたちは、部活動やクラブ活動に積極的に取り組んでいる。	60	40	0	0				
14	児童生徒	部活動やクラブ活動に積極的に参加している。	32	52	13	3				
15	教職員	教育活動の内容や子どもたちの様子などを保護者に伝えている。	40	60	0	0				
15	保・地・運	教育活動の内容や子どもたちの様子は「たより」や「ホームページ」でよく伝わっている。	30	60	0	10				
15	児童生徒	学校からの配布物は、きちんと家庭に渡している。	39	39	12	10				
16	教職員	保護者の質問や相談に誠実に対応している。	60	40	0	0				
16	保・地・運	教職員には気兼ねなく質問や相談ができる。	10	70	20	0				

【考察】

平成19年度からの開校であり、小中一貫校としての様々な新しい取組の中で、小学校と中学校の児童生徒が互いに理解し合おうとする様子があり、統合後の子どもたちの気持ちも少しずつ安定してきていると考えていた。

ところが、子どもたちの学校評価によると、学校としての取組が思っていたほど十分では無かったことがわかった。学校生活の楽しさや教職員とのより良い関係について、又、「授業への興味・関心」などまだまだ課題は大きい。

この結果を踏まえて、今後の取組については、個々の子どもたちへの心の安定を目指したより細かな対応と、子どもたちが楽しみにする授業を行うための工夫を凝らしていくことを課題として取り組むことが必要である。

学校評価システムにより、子どもたちの見えにくい部分がアンケートの結果から読み取れることが分かった。来年度は、学校としてどのように課題を見つけ、そのためにどのような問いかけをすべきなのか、学校評価の改善を図りたい。